

平成29年度実績に係る部局評価書

部局名:情報科学研究科

【評価区分1】 部局年度計画に対する 達成状況評価	【評価区分2】 「全学的に重視する指標」 に係る実績評価	【総合評価】 評価区分1及び 評価区分2に係る評定
S	A	S

【評価区分1:部局年度計画に係る自己評価に対する項目別評価】

項目	評定	コメント(評定に至った主な理由)
【教育】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		博士課程教育リーディングプログラム「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」では、独創力を備えグローバルに活躍するリーダー人材の育成を行い、本年度初めての修了生となる第1期生16名を輩出し(うち、13名が学位取得、13名中1名は短期修了)、修了の最終審査において、研究科を跨ぐ審査委員(指導教員、異なる研究科の教員、学外担当の委員)が参加の上、公開で研究発表会を行っていること、国内外の大学などアカデミアへ8名、ベンチャー企業、コンサルティング会社などを含む企業へ8名が就職し、多様なキャリアパスを取る修了生を輩出したことが評価できる。
【研究】	S	平成29年度計画の達成状況が優れている。
		重点プロジェクト研究費が平成28年度から58%増加(6.69億円)したことが評価できる。また、ダイキン工業との間で推進している情報科学分野を中心とした包括連携において、共同研究・委受託研究(7件、11名)およびAI人材養成プログラム(2件、2名)などの実施に貢献したことが評価できる。
【社会貢献】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
		IT連携フォーラムOACISを通じた産学連携による社会貢献活動を推進し、シンポジウムやICT産学連携フェア、技術座談会を開催している。また、パナソニック株式会社との協働により人工知能共同講座を実施し、10名の受講者に対して、e-learning教材を用いた10日の学習と3回の出張講義を行っている。また、NEDOのAI特別講座「AIデータフロンティアコース」では、3講義を開催し、20名の科目等履修生を受け入れたことが評価できる。
【グローバル化】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。
【業務運営】	A	平成29年度計画の達成状況が良好である。

【評価区分2:「全学的に重視する指標」に係る実績評価】

【評価コメント】

新規で国際共同学位プログラム等の締結をしている点が高く評価できる。
また、大学院生に対してTOEIC,TOEIC/SW受験料の支援を行うなど、外国語力の基準を満たす学生数の増加に意欲的に取り組み、実績を向上させている点が評価できる。